

愛着の森木を測り続けて森を知る編

2025 報告書

第1 概要

1 日時 2025年9月27日土曜日

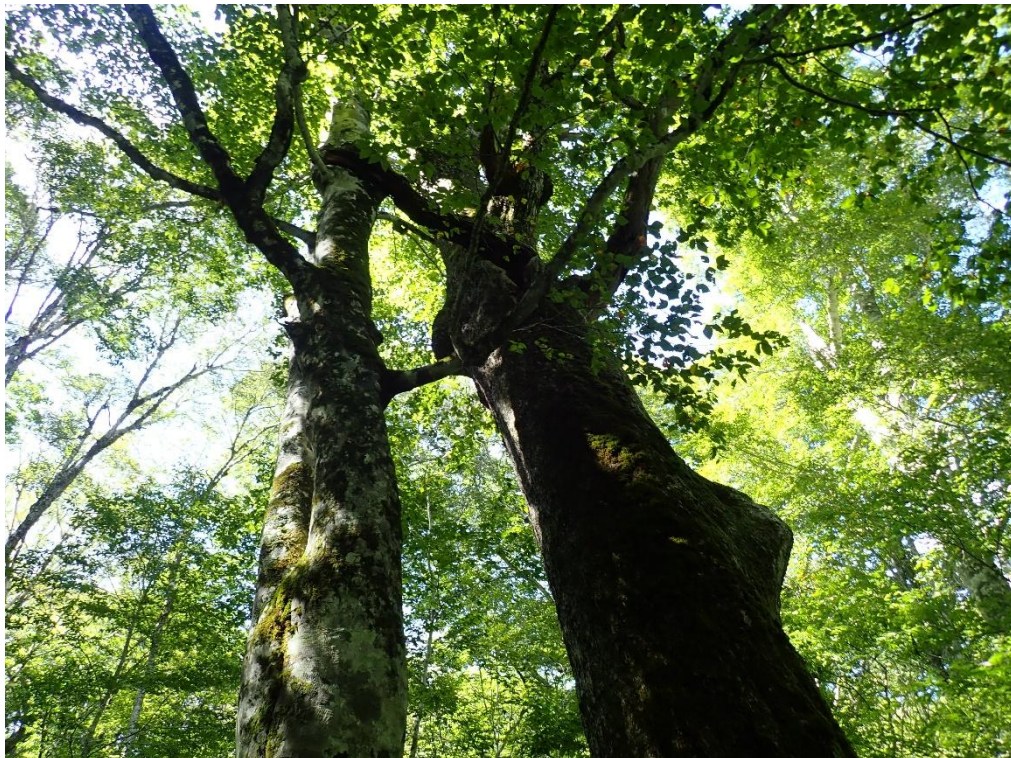
2 天候 晴れ

3 参加者 合計8名

4 調査地 西谷

第2 わかったこと

- 1 有峰林道南岸線から調査地に至る道の、藪が濃くなってきている。
- 2 有峰林道南岸線からは、1960年代に作った造林用作業路を歩き、途中で、唐尾峠に向かう道（鎌倉街道）に入っていく。その分岐点に、学問的に珍しい、連理木（れんりぼく）を観察することができる。これは、写真左のブナの巨木に、写真右のミズナラの巨木の枝が、地上7メートルくらいのところで癒着しているものである。まるで、ブナとミズナラが肩を組んでいるように見える。



3 西谷の調査地を、これまで、トチノキ林と認識していたが、トチノキ・ブナ・ミズナラ林と認識することにした。

4 幹の材木として体積（材幹積）の変化（1ha 換算、立米）

年	2005	2008	2011	2015	2018	2021	2025
幹材積	501.9	487.9	488.2	492.7	492.3	488.2	426.8

(1) 調査地 1000 平米における胸高直径 10cm 以上調査対象木は 19 本であった。うち、17 本は、材幹積を 2.5%増やした。

2021年ラベル	樹種	2021年材幹積	2021年における、全体材幹積に占める割合	2025年材幹積	増加率
303番	トチノキ	1.41	2.9%	0	-100.0%
294番	ミズナラ	5.76	11.8%	0	-100.0%
その他	17本	41.65	85.3%	42.68	2.5%
合計	19本	48.82	100.0%	42.68	-12.6%

(2) しかし、2021 年の 303 番トチノキと 294 番ミズナラが、枯れたり折れたりした。これらの損失が響いて、全体の材幹積は 12.6%減少した。

(3) このように枯れたり折れたりすることは、この調査地に、新たな、林冠ギャップをもたらすことにつながる。

(4) よって、この調査地の材幹積は、2021 年、2025 年の減少を乗り越えて 2008 年レベルまで緩やかに回復していくものと予想する。

5 調査地における巨木

(1) この地における最も太った木は、胸高直径 188.9cm のミズナラである。

(2) 参加者の藤井さん一家が、「有峰おんじー」と名付けて、愛着の森対話篇をしている木である。西谷を歩く人なら、誰もが気づく巨木である。

(3) 2018、2021、2025 の年変化を見ると、この地におけるプレゼンスを高めていることがわかる。元気な姿をしているので、まだまだ太っていくのではなかろうか。

年	胸高直径cm	材幹積立米	全体材幹積立米	比率
2018	186.0	15.46	49.23	31.4%
2021	188.1	15.63	48.83	32.0%
2025	188.9	15.69	42.68	36.8%

第3 3つの森全体としての姿

場所	場所の説明	主な木	この森の概要
猪根谷 (いのねだに)	有峰ビジターセンターの前の有峰林道折立線を折立方面に500mくらい進んだ道路沿い	タニガワハンノキ	1960年の有峰ダム完成の頃、資材置き場だったところが草地からタニガワハンノキの林に遷移し、さらに安定的な森に変わりつつある。
西谷	有峰林道南岸線の西谷入り口から徒歩で20分くらい歩いたところ	トチノキ、ブナ、ミズナラ	有峰森林の究極の姿を観察できる。トチノキ、ブナ、ミズナラが混在している。安定した森とは言え、朽ちる木もあれば新たに成長する木もある。
冷タ谷 (つべただに)	有峰林道西岸線の冷タ谷遊歩道南口から徒歩で10分くらい歩いたところ	カラマツ	1920年頃、県が有峰森林を一括買収し、公共事業としてカラマツを植林した。いずれは、ブナ・ミズナラ等に遷移していくと予測されるが、そのスピードは緩やかである。

年	猪根谷	西谷	冷タ谷
2004	○		
2005	○	○	
2006			○
2007	○		
2008		○	
2009			○
2010	○		
2011		○	
2012			
2013			○
2014	○		
2015		○	
2016			○
2017	○		
2018		○	
2019			○
2020	○		
2021		○	
2022			○
2023			
2024	○		
2025		○	
計	8	7	6

3つの林の1ヘクタールとして幹の材木として体積の変化 単位:立米

地区	主な樹種	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
猪根谷 (いのねだに)	タニガワハンノキ	83.1	81.6	89.0	104.8	113.2	107.9	110.3	125.1
西谷	トチノキ、ブナ、ミズナラ	501.9	487.9	488.2	492.7	492.3	488.2	426.8	
冷タ谷 (つべただに)	カラマツ	440.3	468.4	498.8	469.0	504.5	516.6		

注意 猪根谷は、胸高直径5センチメートル以上を測定。西谷と冷タ谷は、胸高直径10センチメートル以上を測定。

猪根谷の本数の変化 胸高直径5センチメートル以上の本数。現地452平米を1ヘクタールに換算

樹種	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
タニガワハンノキ	1681	1681	1504	1372	1217	973	819	686
ウリハダカエデ						44	133	509
ミズキ							44	155
ヤマモミジ								111
サワグルミ							22	44
ハリギリ							22	44
ナナカマド								22
ヤチダモ							22	22
合計	1681	1681	1504	1372	1217	1017	1062	1593

西谷の本数の変化 胸高直径10センチメートル以上の本数。現地1000平米を1ヘクタールに換算

樹種	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
トチノキ	40	40	40	30	30	30	20
ミズナラ	40	50	50	50	50	50	40
ブナ	40	40	40	40	40	40	40
チョウセンミネバリ	50	50	50	40	40	40	40
ホオノキ	10	10	10	10	10	10	10
ナツツバキ	10	10	10	10	10	10	10
ミズメ	10	10	10	10	10	10	10
合計	200	210	210	190	190	190	170

冷タ谷の本数の変化 胸高直径10センチメートル以上の本数。現地1000平米を1ヘクタールに換算

樹種	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
カラマツ	200	200	200	150	150	150
ミズナラ	50	50	50	50	50	50
シラカバ	40	30	30	10	10	
ハリギリ	20	10	10	10	10	10
アズキナシ	10	10	10	10	20	20
ダケカンバ	10	10	10	10	10	10
合計	330	310	310	240	250	240